

市民科学講演会

リズムと雑音の 役割を知ろう

身のまわりにはリズムや雑音が満ちあふれています。

そのような身近な現象が最新の物理学によってどのように解き明かされているのでしょうか。

実は、リズムや雑音は想像を超えるような役割を果たしているのです。

世界的に著名なお二人の先生を講師にむかえ、分かりやすくお話ししてもらいます。

「リズム現象の科学」

蔵本由紀先生（京都大学客員教授 京都大学名誉教授 2005年朝日賞）

「雑音の思いがけない役割と機能」

甲斐昌一先生（九州大学教授）

入場
無料

日時

平成22年9月23日(木) 祝日

13:00 開場 14:00~16:30 講演

会場

大阪府立大学
中百舌鳥キャンパス Uホール白鷺



<http://www.ms.osakafu-u.ac.jp/rhythm/>

メール rhythm@ms.osakafu-u.ac.jp

日本物理学会2010年秋季大会実行委員会

リズムと雑音 |

検索



「リズムと雑音の役割を知ろう」

講演者紹介

「リズム現象の科学」

蔵本由紀 (くらもと よしき)

理論物理学者。非線形科学、特に結合振動子系研究の世界的第一人者。2005年朝日賞受賞。主な著書「あたらしい自然学」(岩波書店)「非線形科学」(集英社新書)他多数。

私たちの身边にはさまざまなリズム現象が見られます。一つのリズムは他のリズムと出会うと歩調をそろえて振る舞うという不思議な性質があります。これを同期と呼びます。同期が基になってどんな多彩な現象が生じるのか、それらは私た

ちの生命活動や生活にどんな役割を果たしているのか、科学者たちはこうした現象をどのように理解しようとしてきたのか、などについてわかりやすくお話しします。

「雑音の思いがけない役割と機能」

甲斐昌一 (かい しょういち)

実験物理学者。液晶、化学反応、植物など幅広い素材を対象として世界的に活躍する実験のエキスパート。主な著書「液晶のパターンダイナミクス／滑りと摩擦の科学」(培風館)。

私たちの生活の場には様々な雑音(ノイズ)が満ちあふれています。これまでは雑音がない方がシステムを期待通りに動かせるものと考え、雑音を取り除く努力が払われてきました。ところが20世紀の終わりに、複雑なシステムでは、むしろ適

度な雑音がある方が都合の良い場合のあることがわかりました。特に生命体で雑音がうまく使われています。ここでは、雑音とは何か、どんな種類があるかを紹介し、実験事実を中心に、その意外な働きをわかりやすく解説します。

場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス Uホール白鷺

日時：平成22年9月23日(木) 祝

開場：13時00分 講演：14時00分～16時30分

◆参加は無料です。◆事前申し込みを受け付けます。600名までは予約席を用意します。詳しくは下記ホームページまで。

◇お問い合わせ

大阪府立大学 エクステンション・センター TEL・FAX 072-254-9942

※駐車場はありませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

<http://www.ms.osakafu-u.ac.jp/rhythm/>

電子メール rhythm@ms.osakafu-u.ac.jp



主催／社団法人日本物理学会、日本物理学会2010年秋季大会実行委員会

共催／大阪府立大学 後援／大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会

